

# ESD 国際シンポジウム in 奈良 2026 を開催

国立大学法人奈良国立大学機構 奈良教育大学

## 1. はじめに

奈良教育大学は 2007 年に日本の大学としては最初にユネスコスクールに加盟登録して以来、ESD を基軸に据えた教員養成に取り組んでいます。2011 年 3 月に持続発展文化遺産教育研究センター（当時、文部科学省では ESD を持続発展教育と訳していました）を設置、2015 年には近畿 ESD コンソーシアムを組織、2022 年 4 月には、ESD・SDGs センターを設立しました。

## 2. 奈良教育大学の 3 つの柱

1. 人・環境・文化遺産との対話を通じた教育の追究
2. 持続可能な社会づくりに貢献できる教員の育成
3. 教員養成と教員研修の融合

本学では、教員を目指す全学生が ESD についての知識、指導方法を身に付けることができるよう取り組んでいます。

## 3. ESD 国際シンポジウム in 奈良 2026

奈良教育大学 ESD・SDGs センターでは、去る 2 月 21 日に、「ESD 国際シンポジウム in 奈良 2026」を、防災・減災、気候変動、歴史文化交流をテーマに、アジアを中心とした国際的な研究・実践と若者の参画を通じた ESD の国際パートナーシップ構築を目的に開催しました。当日は本学講堂にてハイブリッド方式で実施し、国内外各地から計 174 名の出席を得ました。

冒頭、基調講演として、ユネスコ・ジャカルタ事務所の林川真紀所長による「持続可能な東南アジアの実現に向けて、減災と気候変動対策及び文化理解を教育と学びに統合する ESD」と題した講演が行われ、気候変動危機下での教育カリキュラムのグリーン化、津波防災や世界遺産を活用した学習など、ESD の意識向上と国境を越えた実践の方向性が示されました。

続いて開催されたアカデミックセッションでは、国連大学・日本・インドネシア・カンボジアから 4 名の専門家が登壇し、

インドネシアのシアクアラ大学国際所長のムザイリン・アッフアン氏は 2004 年アチェでのインド洋大津波の経験から、地域の知恵と国際連帯を結ぶ防災・ESD の可能性を提起しました。

午後は、まず ESD セッションとして、釜山国立大学をはじめ国際 NPO や学校、教育委員会など多様な国と教育分野から ESD の実践が紹介されました。その中で、気仙沼市・宮城教育大学連携センター（気仙沼市教育委員会）主任運営員の浅野亮氏は、東日本大震災で被災した同市の実践例として、



【ユースセッションの様子】

大学等研究機関との連携や、国内外の他地域との交流による学び、行政や企業、地域住民等と協働した中学生等による語り部活動等の取組を報告しました。次にユースセッションでは、日本・韓国・インドネシアから5名のユースが登壇し、「ユースのESDへの参画」をテーマに実践発表が行われました。本学ユネスコクラブの木下結等氏は、未災地において研究知を行動へと変容するユース主導の教育モデルを提示し、持続的な防災・減災学習の改革策を提言しました。

最後に、及川幸彦 ESD・SDGs センター長をモデレーターに総括セッションが行われ、アジアを中心とする大学や研究機関、ユースの国際連携の強化、ならびに学校・地域・国際機関の協働を通じた「持続可能な社会の創り手」の育成の加速を提言し、全体で確認して閉会しました。参加者からは、国際的な研究・実践の共有とユース参画の広がり刺激を受け、今後の取組へ多くの示唆を得られたとの声が寄せられ、国内外のESD推進に貢献する学びと連帯の場となりました。

#### 4. ESD 子どもフォーラム

1月11日（日）に近畿ESDコンソーシアム成果発表会を開催し、午前中にESDに取り組んだ児童生徒によるESD子どもフォーラムを実施しました。今回は、和歌山県橋本市立高野口小学校、滋賀県草津市立新堂中学校、奈良県立磯城野高等学校の児童生徒が成果を発表し、本学のユネスコクラブの司会のもと、意見交流を行いました。各校とも地域の人材や資源を活用した探究的な学びが展開されており、どの児童生徒も学びを通して行動を変容させている様子がうかがわれました。

また、各校交じっての小グループに分かれ、「持続可能な社会に向けて、私はこれをやる！」をテーマにディスカッションを行いました。すでにやっていることや、これから行動を起こしたいことなど、終始意欲的な話し合いが展開され、一人一人が自分にできることを継続してやっていくことの大切さを確認することができました。



【ESD子どもフォーラムの様子】

#### 5. おわりに

ESD・SDGsセンターでは、上記の国際レベルでのESDの取組や全国各地の学校や地域と連携した取組に加えて、春日山原始林でのフィールドワークや、防災の視点から学生が企画する高校生とのならまちのタウンウォッチング、そして、明日香村の万葉文化館での授業づくりセミナーなど、地元奈良の世界遺産や歴史遺産を活用した「地域に根差したESD」の取組も展開しています。

このような「Think Globally, Act Locally」という視点からESDの取組を推進することで、奈良教育大学ESD・SDGsセンターは、日本の「ESDナショナルセンター」として「持続可能な社会の創り手」の育成に貢献するとともに、教員養成大学としての強みを最大限に生かして、ESDを実践できる教員（指導者）の養成と研修のための多様なプログラムを実施しています。